

秋田産タイに試験輸出

MRTジャパンの仲介で

秋田市公設地方卸売市場の青果卸・仲卸、北都銀行が出資して設立したあきたベジフルサポート

ジャパン(小村香月社長、名古屋中央卸売市場北部市場、以下MRT)の仲介により実現した。

(水沢幹社長、本社)秋田市場、以下AVS)は先月、タイへ県産農産物の試験輸出を行った。パ

輸出の取組みは、バンコクに駐在事務所を置く北都銀行が、タイに関連会社を持つMRTをAVSに紹介したことに始まる。AVSはMRTから輸出販売用の県産青果物を受注。荷は秋田空港から中部国際空港を経由してバンコクへ空輸。通関手続きなどは中部国際空港に到着後、MRTが行った。

錦」と小玉スイカ、JAのおほご産キュウリ、JAかつの産トマトの合計4品目・150キ。このうちサクランボと小玉スイカは試食販売し、トマトとキュウリは試食を提供した。サクランボは、タイ人が食べ慣れていないメリカンチェリーと比べると「酸味がある」との意見もあったが、味は高い。甘い」との声が聞かれた。トマトも「甘い、やわらかい」と好評で、「販売しているなら買いたい」という要望も。サクランボはイベント終了

後、「バンコク伊勢丹」で引き続き販売された。イベントを通じ、「サクランボは他県と比べ品質の遜色がなく、販売場所によってはシェア拡大が期待できる」「小玉スイ

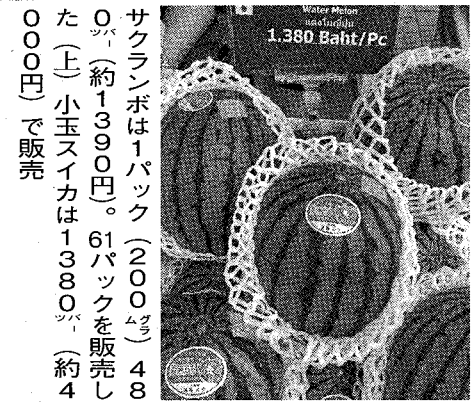
力はマネキンをつけて試食してもらい、質の高さをPRすれば売れる」などと、販売拡大に向けた手応えもあったという。同社では秋にもモモや特産品のナシ「秋泉」などの輸出を考えている。

なおAVSは、2015年、秋田市場の卸会社・秋印秋田中央青果と仲卸の松紀、上伸青果、北都銀行の出資により設立された。

ンボと小玉スイカを販売。ともに味や品質に対する評価は上々だったという。同社では今年2月頃から輸出を検討し、青果物の輸出入を手掛けるエム・アール・ティー・

輸出したのはJAこまち産のサクランボ「佐藤

「販売しているなら買いたい」という要望も。サクランボはイベント終了



サクランボは1パック(200g)480円(約1390円)。61パックを販売した(上)小玉スイカは1380円(約4000円)で販売